

## ペットボトルのリサイクルに向けて 共同宣言及び協定を締結

北杜市環境事業協同組合（篠原充理事長／組合員8社）は1月17日、使用済みペットボトルを新たなペットボトル容器に再生して飲料製品に用いるボトル to ボトル（BtoB）リサイクル事業\*に関し「ペットボトルの水平リサイクル推進に関する共同宣言」を、北杜市環境事業協同組合が北杜市とサントリープロダクツ株式会社天然水南アルプス白州工場と締結した。同宣言を結ぶのは全国で初めての取り組み。

使用済みペットボトルは約9割が再資源化（マテリアルリサイクル）されているが、その内多くは食品トレー、卵パックや衣類などに再生（カスケードリサイクル）されている。宣言では、BtoBリサイクル事業により循環型社会の実現を目指すとしているが、BtoBリサイクルの推進には、使用済みペットボトルがきれいな状態で確実な回収されることが不可欠であり、排出する時点でラベル・キャップ・ボトルの分別、洗浄など市民の理解と協力がなくてはならない。また、BtoBリサイクルのできるペットボトルの選別とサントリープロダクツの指定業者への提供に組合員の処理業者の作業が不可欠となってくる。

北杜市は2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に取り組むことを

宣言し、組合と協力し独自の廃棄物自主回収ルートの工夫などの取り組みを行ってきた。この取り組みに賛同したサントリー側から地域に根づいた企業を目指す取り組みの一環としてBtoBリサイク

ルの申し入れがあり、今回の宣言と同時に県内では初めてとなる組合と北杜市、サントリーグループで事業実施に関する協定が締結された。

組合では、資源物の回収と選別を行っている事業者の組織として、今後も北杜市に協力して、二酸化炭素の排出量の実質ゼロを目指したクリーンなまちづくりに協力をしていく。

※ BtoB リサイクル事業とは…

北杜市民の使用済みペットボトルを回収し、リサイクル業者が新たなペットボトル容器として再生後、サントリーの工場ですべて再使用するという、持続可能なリサイクルモデル。これにより、ペットボトルの原料となる石油の消費低減に寄与するものである。

## 北杜市環境事業協同組合



左から

- ・サントリープロダクツ株式会社天然水南アルプス白州工場 増田茂生工場長
- ・北杜市 上村英司市長
- ・北杜市環境事業協同組合 篠原充理事長

